

1 学校教育目標	
(1) 地域に愛され、地域とともにある学校づくり (2) ものづくり教育と部活動をととした人づくり (3) 基礎学力と基本的な生活習慣の定着による進路実現 (4) 常により良いものへと向かう姿勢の育成	
【NEXT ONE】	

2 本年度の重点目標	
本校の校訓「誠実」を基柱とし、教育庁の令和2年度(2020年度)「教育指導の重点」並びに「取組の方向」に則り、家庭、地域、学校が連携し、生徒の「夢実現」と「生きる力の育成」に向けた教育活動を推進する。	
(1) 学力の定着向上と教育相談の充実による進路保障 (2) 専門教育の充実 (3) 部活動の推進と適正化 (4) 本校の魅力発信 (5) 安全教育並びに危機管理の充実 (6) 校務整理と業務改善	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	・学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	・教育目標と重点を説明し、教職員は9割、生徒・保護者は8割以上の認知度をめざす	・職員会議、全校集会、PTA総会、学年保護者会、学校新聞等で本年度教育方針等の説明	A	学校評価アンケートの結果は、職員98.4%、生徒82.8%、保護者82.6%が理解していると回答しておりPTA総会等の行事が実施できなかったが周知・理解は進んでいる。
	組織の運用と学校活性化	・業務改善意識の醸成 ・職員間の仕事上の連携	・職員アンケートによる計画的な「校務の工夫と超過勤務削減への取組についてできている」を70%以上、「職場へ向かうことが楽しい」が70%以上 ・業務改善策の取組	・業務の改善意見集約とやり甲斐のある職場環境づくり ・科会及び部会、委員会等で、職員の帰属意識の向上 ・業務改善の検討と提案	B	職員アンケート結果は業務改善を意識して、校務に取り組んでいるが79%となった。朝会の削減、WEBを活用したアンケート等業務改善の取組を進めることができた。更に取組を進める必要がある。
		・入学希望者定員確保への更なる取組	・職員による中学校訪問や説明会参加を2回以上実施 ・体験入学等の説明内容の工夫と充実	・6月学校説明会 ・7月体験入学 ・11月進路状況報告	B	コロナウイルス感染症拡大防止のために体験入学を行うことができなかったが、各科で制作した動画WEBを通じて配信し、各中学に周知した。
学力向上	生徒の学力向上	・学習態度の向上	・授業出席率95%以上 ・提出物90%以上 ・積極的参加80%以上	・生徒授業アンケートを実施	B	具体的な目標は概ね達成することができたが、教師から見た「生徒の積極性」が若干低いアンケート結果があり、生徒の積極性を引き出す授業改善を推進していく必要がある。
		・定期考査への取組の徹底	・欠点者の昨年度からの減少	・成績不振者への補習や部活動を中心とした学習会を実施	B	教務部の定期考査前補習だけでなく、学年、学級及び部活動単位での学習会をととして欠点者は若干減少した。
	教員の授業力向上	・公開授業の推進	・授業見学会を年間3回実施し、一人平均4回見学	・教務部が立案し、学校全体で取り組む	B	年間3回実施し、各回とも一人1～2回の見学があり、この取組をととして学習指導力向上につなげることができた。

	工業分野に関する知識と技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・技能検定や国家資格等への挑戦 ・各種イベントへの参加及び各種大会での上位進出 ・地域と連携した「ものづくり」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアマイスター認定者数全国上位30校入り ・各種コンテストでの入賞、こども科学フェアの継続実施 ・地域への貢献活動を各科1回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、進路指導部、学科及び学年が連携した継続的指導、課外を実施 ・大会出場者への指導及び学校広報活動を充実 ・地域のニーズに即した課題の設定及び研究を推進 	B	資格取得では、学校全体が連携して取り組むことできた。その結果、ジュニアマイスターには、約150人の生徒が認定された。
					B	コロナ禍で各種大会や催し物の多くが中止となる中、熊本県高等学校生徒研究発表会崇城大学学長賞などを受賞した。 「シャッターアート」や「オリジナル箱罨」など、各科の特性を生かした貢献活動が行われた。
キャリア教育(進路指導)	主体的な進路選択を支援する職業観や勤労観の育成に資する機会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性やマッチング、体験内容と振り返りを充実させる事前打ち合わせを1回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・県キャリアプランニングスーパーバイザーの指導の下、インターシップ充実のためのフレームワークを整備し、内容充実の支援 	B	キャリアプランニングスーパーバイザーの助言指導により、依頼時点で実習内容を盛り込み、具体的な日程と体験の目的が生徒に取っても分かるようになった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートによるPDCAの推進と定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期のはじめに現状分析と目標を立て、終わりに振り返りのレポートをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務・各学年部と連携し、学期に1回取り組む 	B	キャリアパスポートの運用が浸透し、学年主導で実施が進むようになった。今後は振り返り後の改善行動の推進に注力したい
		<ul style="list-style-type: none"> ・県内外問わない就職・進学ガイダンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・県外・県内・管内の進路説明会を、各1回ずつ実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部が立案し、全生徒が対象となる説明会に必ず参加 	A	対面とオンラインで実現し、生徒が主体的に動くことができる素地ができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・将来設計能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援機関と協力して外部講師を招聘し、将来設計に係わる講話を1回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・県雇用環境整備協会や八代県域雇用促進センターと各々協力し、実施 	A	感染症予防により集会ができなくなったことから、熊本しごとコーディネーターによる職業講話を2回実施し、生徒の意識高揚に努めた。
生徒指導	問題行動、交通事故等の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導や一般指導件数 ・交通事故発生件数 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導件数の減少 ・交通事故件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講話、携帯電話教室、いじめ防止講座、薬物乱用防止教室の実施 ・春秋の交通安全運動の実施 ・日常的な生徒指導の充実 	A	交通安全講話、携帯電話教室、いじめ防止講座、薬物乱用防止教室等はコロナウイルス感染症拡大防止の影響で実施することは出来なかったが、朝の登校指導の充実、情報モラル啓発・交通安全情報の共有等により特別指導件数、交通事故件数ともに減少した。 来年度もコロナウイルス感染症拡大防止の影響で全校集会等の実施が出来ないことも考えられるのでリモートなど対応を考えたい。
	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に応じたきめ細やかな支援や指導がなされているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱えた生徒への組織的な支援体制の充実 ・特別指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会の定期開催 ・個々に応じた特別指導計画の作成と実施 	B	特別指導を受けた生徒に対して個別に指導計画を立てることにより充実した指導が出来た。

				・ S S Wや S C、教育相談や特別支援教育担当と連携		また、問題を抱えた生徒に対しても教育相談等と情報共有を行うことで問題行動や悩みを持つ生徒に対して対応することができた。
人権教育の推進	研修の充実	・ 人権感覚が深まったか	・ 校内・校外研修への参加	・ 校外研修日程の周知徹底と推進委員会での企画立案と実施	B	コロナ禍にあり、一部中止となる研修もあったが、八代地区人権同和教育現地研修会など多くの研修への参加を促すことができた。
	人権教育の充実	・ 全ての教育活動にわたって人権教育を実施	・ 人権教育に係る、年間計画の作成	・ 人権教育推進委員で L H R 指導案の原案作成	B	「ハンセン病回復者等の人権を考える」等、各学年において人権 L H R を各学年 2 回ずつ実施できた。
			・ 人権に係る講演会を実施	・ 人権教育推進委員会での企画立案と実施	B	デート D V 未然防止教育として、八代市男女共同参画アドバイザー派遣事業を利用して、講師を招聘し、講演会を実施した。 水俣病差別学習のための講師招聘がかなわなかったが、代わりに、ハンセン病回復者の人権を考える学習を、教育センターの動画教材を利用して行うことができた。
	命を大切にすることを育む教育	・ 自他を尊重し、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	・ いじめアンケートで、いじめや暴力を受けたことがある生徒数の減少	・ ソーシャルスキルトレーニング (S S T) を継続実施	C	コロナ禍でグループワークを伴う S S T は実施できない状況にあったため、通信を利用した学習活動を推進した。
・ 毎月の人権標語作成とあいさつ運動の実施				B	コロナ禍にあり、学期は実施できなかったが、2 学期 10 月より毎月人権の日 11 日に「人権挨拶運動」生徒会共助委員で実施した。 併せて生徒の作った人権標語を毎月掲げ、啓発を図った。	
いじめの防止等	いじめの未然防止と適切な対応	・ いじめの認知件数とその解決率の向上 ・ いじめアンケート、スクールサインによる情報収集	・ いじめが起きた際の適切な対応 ・ いじめ等に関する情報共有の強化 ・ 生徒と教師の信頼関係構築 (体罰・暴言の禁止) と生徒の相談しやすい環境整備	・ 本校いじめ防止基本方針に則りいじめ根絶への取組実践 ・ 重大事態対応マニュアルの整備 ・ 「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育と生徒の人権に配慮した教育実践	A	本校いじめ防止基本方針に則り生徒・保護者からの訴えやアンケートからわかったいじめに対して S S W や S C、教育相談と連携することにより早期発見・早期対応をすることができた。
地域連携 (コミュニティスクールなど)	生徒・保護者・職員による地域連携	・ 防災型コミュニティスクールとしての地域との連携体制	・ 地域住民と学校関係者の協力体制を確認 ・ 避難所運営マニュアルの確認・改善 ・ 地域へ防災器具の提供	・ 学校運営協議会で具体的な連携体制の確認 ・ 地域との防災避難訓練の実施や防災に関する器具の提供	A	コロナウイルス感染症防止の観点から、地域と連携した避難訓練を実施できなかったが、校区長による避難施設の見学や避難経路の確認を行うことができた。 また、機械科で製作した「防災コンロ」を今後、地域に寄贈する予定である。

	開かれた学校づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりを通じた地域貢献や魅力ある教育実践と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 総会(書面決議)委任状、回答率90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安心安全メール、HPを活用した、保護者への連絡徹底 	C	<p>書面決議によるPTA総会の回答率が84%であり、目標を下回った。</p> <p>連絡用ツールを活用したが、今後はオンライン等による新たな総会の方法を検討していきたい。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の再検討を行い、地域への教育実践・活動を浸透させる 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校体験入学、課題研究、ボランティア等の活動を積極的に実施 	C	<p>学校行事や豪雨災害へのボランティア等、当初計画の行事やボランティア活動が、コロナウイルス感染症拡大防止のために中止を余儀なくされ、十分な活動を行えなかった。</p>
特色ある学校づくり	資格検定の取得及び部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> 朝は課外、放課後は部活動に励むメリハリのある学校生活 基礎基本を大切に、凡事徹底の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 各種コンテスト入賞(3位以内) 部活動各種大会入賞(ベスト8以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、担当者との連携(信頼と協力)による指導強化 顧問の指導力向上(外部研修を含む) 	A	<p>高校生ものづくりコンテストは中止</p> <p>生徒研究発表会はインテリア科が崇城大学学長賞を獲得した。</p> <p>運動部、文化部ともに活躍が見られ、多くの部活動が九州大会以上の出場権を獲得したが中止となる大会も多かった。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲高揚 	<ul style="list-style-type: none"> リーダー研修会を実施し、生徒の自覚と自信を深め、学校の活性化に寄与する人材を育成 資格や大会内容の紹介及び合格や入賞結果の報告 	A	<p>リーダー研修会はコロナウイルス感染症防止で中止。</p> <p>資格や大会の結果を学校や各科のホームページにおいて情報発信を行った。ジュニアマイスター特別表彰は10名であった。</p>
保健安全環境の管理	校内環境整備の充実	<ul style="list-style-type: none"> 環境に対する責任ある行動を実践 	<ul style="list-style-type: none"> 学校版環境ISOに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ごみ削減及び分別の徹底 省資源・リサイクル徹底 環境系ボランティアへの積極参加 	A	<p>ごみ分別を昨年度よりも細分化し、可燃ごみ削減について目標値を達成することができた。</p> <p>生徒職員合わせ約260人が「八代海・浜辺の大掃除ボランティア」に参加し、環境保全について学ぶことができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 校内の安全管理意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 職員および生活委員による校内安全点検を学期毎に実施 	<ul style="list-style-type: none"> 校内危険箇所の把握および改善 	A	<p>学期に1回校内安全点検を実施し、校内の危険箇所把握及び改善につなげることができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓の意識高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の美化週間を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 美化コンクールおよび美化点検を実施 	A	<p>生徒会主導による美化コンクールを学期に1度実施し、教室内の美化向上に寄与できた。</p>
	心身ともに健康な学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健(病気予防対策等)啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、学校の連携徹底と生徒情報共有化、毎月保健だより発行、外部講師講話の実施 衛生委員会月1回開催 	A	<p>保健だより等で感染症対策の情報を発信した。性教育講演会も感染症対策を十分に取り1年生のみ実施できた。衛生委員会は、国の緊急事態宣言時以外の月は、実施できた。</p>

特別支援教育	特別支援の充実	・個に応じた指導の充実	・必要な生徒の支援計画、指導計画作成、適切な支援を実践	・学科、学年と連携しながら全職員共通理解に基づく支援の実施	B	書類の作成については、比較的スムーズに作成してもらうことができた。活用の方法には課題が残る。
				・家庭や専門機関との連携	A	中心となる職員の意識の高さもあり、専門機関と協力し十分に支援に結びつけることができた。
		・発達障がいや悩みのある生徒の情報の共有化と支援の実践	・科会や学年会からの情報を教育相談部で共有化し適時支援できる対応策の研究	・生徒理解研修の実施 ・SSWやSC等の活用および専門家による校内職員研修の実施	A	生徒理解研修は、本校SCの協力により、アンケート実施など工夫して開催することができた。

4 学校関係者評価

(1) 評価された点

- 各職員が組織の一員としての自覚を持ち、教育目標の具現化に向け熱心に教育・指導しておられる様子を授業参観をして感じた。
- 生徒の授業態度も立派であり、まさに伝統と誇りを胸に未来へ羽ばたこうとしている生徒諸君の思いが伝わってきた。
- 効果が上がっている事項は目標を定め、「職員がしっかり取り組み、協力・指導していく体制」ができており、生徒とも「共通理解」ができている。
- 生活面、自転車の整頓が実に気持ち良いです。ずっとこのままであってほしい。
- 進路指導で県内、八代市内の就職者が増えている。特に八代市内の中小企業への就職について合同説明会等の成果が出ているように思う。
- 低迷していた感のある運動系の部活動（野球、サッカー、柔道）の成果が見られる。

(2) 課題

- 地域に必要とされる学校として生徒の育成プランの改善を地域性を取り入れながら行ってほしい。
- 効果が上がっていない事項は分掌毎の「ねらい＝目標」が職員間でできていないのではないかと「職員相互の関係性の充実」が重要ではないか。ある分掌では職員間の共通理解及び取り組みがあまりできていないように感じ残念です。前向きな取組や目標の見直し等も必要ではないか。
- 少子化の流れの中、現中2は特に人口が少ないので次年度の生徒募集が心配である。八代市外、地域外の中学生から選ばれるように工夫が必要。
- 学習による知識に加えて資格が取得できることを更に詳しく中学生に周知して進路選択の材料としてはどうか。
- 教員が雑務に追われることなく、本来あるべき指導に時間がとれるようになって欲しいと思う。
- 学校評価を否定する訳ではないが、毎年度ではなく中長期的な視点でやったほうがよいのではないかと教育委員会を含めて議論が必要だと思う。
- 中学の進路指導の方は工業高校の中身をあまり理解してもらえていない印象である。
- 校内の庭園内にある男子希望の像が建立され56年になる。本校も4年足らずで80周年を迎えることから記念として女子像を建立してはどうか。
- 本校も定員割れが機械科以外で厳しい状況にある。例えば電気科を1クラスに減にし、建築科を新設してはいかかが。自然災害からの復興に必要な建築技能士の養成が急務と考える。

5 総合評価

- 今年度は201人の新生が入学した。生徒募集に向けて、コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの大会や行事が中止になった中、体験入学に変わる動画をHP上に公開するなど工夫した。また、地域のボランティア活動や関係機関等と連携した地域貢献活動を行うなど、在校生も体験的な活動に取り組んだが十分なPRには至らなかった。次年度の志願者数は前年度とほぼ同数であり、積極的なPR活動をしていきたい。
- 学校目標や重点目標については、昨年度、重点目標を整理し継続した。年度当初に教職員へ周知し、生徒へも機会ある毎に周知を行ったが行事が中止になった影響もあり、アンケート調査からは生徒83%（昨年度88%）、保護者83%（昨年度92%）と昨年度と比べ、生徒、保護者の理解度が低くなっている。職員はもとより生徒、保護者の理解を深めるため、今後も周知を継続して図っていく必要がある。
- アンケート調査の学力向上への取組では、授業が「分かりやすい」と回答した生徒が、90%と昨年度と比べ若干低下しているが良好な結果であった。今後も生徒一人ひとりの理解度を丁寧に把握し授業改善に努め、個別指導などの更なる対応が必要であると考えている。「進路目標や夢実現のため計画的に努力している」と答えた生徒が85%であり、今後は更なる学習意欲の向上、進路実現に向けた指導の充実に取り組み、生徒の意欲喚起につなげたい。
- 進路指導について昨年度は25%の生徒が「面談」について十分ではないと回答しているが、今年度は17%となり、8ポイント改善した。担任を中心とした面談が浸透してきていると考え

る。本年度は、年度当初の一斉休校等もあり進路実現への影響が心配されたが、学校再開後に指導期間をできる限り確保したことで内定状況も昨年度と同様に進めることができ、12月には就職内定100%を達成した。進学では熊本大学1人、大分大学1人、長崎大学1人、熊本県立大1人、熊本県立技術短期大学校1人、九州職業能力開発大学校2人の計7人が国公立大学・大学校に合格し、昨年度とほぼ同数であった。今後も、種々の推薦入試に対応した進学指導に努めたい。公務員合格者は3人（熊本県警1人、自衛隊2人）だった。公務員指導については希望者が少ないものの、生徒の進路実現のために課外等の指導を更に充実したい。

○資格取得については、各科とも熱心に取り組み、ジュニアマイスターの取得者（特別表彰含む）は150人であった。全国の優良校として学校表彰も受けることができた。

○校内環境美化については、98%の保護者が「よく整備されている」と回答しており、生徒においても、88%が「環境美化が良い」と感じており、更なる環境美化に努めたい。

○部活動では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多くの大会が中止となったが、卓球部、柔道部、卓球部、弓道部が県内大会において優勝や上位入賞するなど活躍し、美術部、写真部等文化部においてコンクール最優秀賞を受賞するなど活躍した。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 学力の定着向上○各教科の授業研究の更なる充実○ICT活用授業の充実
- (2) 教育相談の充実による進路保障○教育相談部(人権・特別支援)の組織内連携強化と関係機関との連携
- (3) 専門教育の充実
- (4) 部活動の推進と適正化
- (5) 本校の魅力発信○学校案内や広報誌、HPの充実と年間を通じた計画的な広報活動○ものづくりや部活動等を通しての地域貢献活動
- (6) 安全教育並びに危機管理の充実
- (7) 校務整理と業務改善